

平成27年12月25日

豊田市議会議長 神谷和利 様

地方創生対策特別委員会  
委員長 太田博康



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 派遣期間 平成27年11月17日（火）～19日（木）
- 2 派 遣 先  
及び内容 17日（火）…栃木県那須塩原市  
／那須塩原市定住促進計画（那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略）について  
18日（水）…栃木県那須町  
／道の駅「那須高原友愛の森」の管理運営について  
19日（木）…内閣府地方創生推進室  
／地方版総合戦略について
- 3 派遣委員 委員長 太田 博康  
副委員長 鈴木 章  
委 員 近藤 光良 安藤 康弘 根本 美春  
羽根田利明 木本 文也 杉本 寛文  
榎屋小百合 原田 隆司 日當 浩介
- 4 報 告 書 視察報告書のとおり
- 5 そ の 他 隨行 成瀬剛史、佐鳴晃

## 視察報告書【1】

委員会名	地方創生対策特別委員会	委員長	太田 博康
視察日時	平成27年11月17日（火）午後1時30分～午後3時00分		
視察先	栃木県那須塩原市		
視察内容	那須塩原市定住促進計画（那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略）について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「地方版総合戦略（人口減少対策、地域活性化など）」の参考とするため		
本市議会の現状と課題	当委員会は、まち・ひと・しごと創生基本方針2015への対応策として、地方版総合戦略の策定、観光や地域活性化の拠点となる「道の駅」の更なる充実、人口減少など地域課題への対応策等の推進を目指し調査・研究を行っている。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阿久津市長、中村議長より歓迎の挨拶</li> <li>・ 説明者 企画部 片桐部長、企画政策課 江面主査</li> <li>・ 那須塩原市では牛乳で乾杯条例が制定されており、会議前に牛乳で乾杯</li> <li>・ 那須塩原市の人口ビジョンについての目標の設定           <ul style="list-style-type: none"> <li>① 短期的目標 市への転入者数が転出者数を上回ること</li> <li>② 中期的目標 現在の人口規模を維持すること 生産年齢人口比率60%を維持すること 市への愛着を感じている人の割合が80%以上であること</li> </ul> </li> <li>・ 市の将来像 人と自然がふれあうやすらぎのまち那須塩原 定住促進に向けた鍵となる7つの「K」の重点施策の実施 7つの「K」とは、「雇用」「結婚」「子育て」「教育」「暮らし」「交流」「広報」</li> <li>・ 具体的な取組み 英語教育(ALT)の充実、三世代同居・隣居のための住宅取得・増改築への補充金、新幹線通勤補助 等</li> </ul>		
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市長自ら那須塩原市のPRしようとする姿勢や人口減少に危惧し、様々な施策を展開しており、その取組みを議会側もバックアップしている状況を感じた。</li> <li>・ 那須塩原市は、「人口分析」についてかなり詳細に行っている。人口の分析は将来の自治体運営に関する重要な要素となる。その結果、那須塩原市では大学への進学で若者が市外に流出するが、東京まで新幹線で1時間という距離であるため、卒業後に就職で地元に帰って来ているという傾向を読み取ることができており、就職先としての産業誘致、住宅地の確保などの取組みに結び</li> </ul>		

	<p>ついている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少への危機感からニーズの把握が行われ施策が取組まれ「人から選ばれるまちづくり」が行われている。</li> </ul>
本市議会に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口分析をもっと詳細に行い、ターゲットとニーズを的確に把握し、その上で重要であると思われるものについて可能な限り取組む姿勢が必要であると考える。 例えば、定住促進、子育て支援、土地利用、交通施策、道路整備等</li> <li>「WE LOVE とよた」を進める上でも、地元への愛着が薄れ、地元離れが進みつつある今、地域コミュニティの持続策としてコミュニティの再生が必要であると考える。</li> <li>若い世代の声を集約し「住み続けたいまちづくり」への取組みを行う必要があると考える。</li> <li>シティープロモーションの強化。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>那須塩原市は、那須高原への入口でもあり、企業としてブリジストン(株)、カゴメ(株)、ボッシュ(株)などの進出もされている。 観光地としては隣の那須町ではあるが、新幹線の駅があるため有利となっている。 平成の合併で「黒磯市」の名を捨て「那須」を名を選択した点は、まさに観光を前面に出した都市ブランドを活かすためである。</li> <li>本市においても人口の転出抑制は重要な取組みであり、生産年齢人口を維持するためにもターゲットとニーズに視線を置きタイミングリーな施策の検討が望まれる。</li> <li>議会を尊重する姿勢と行政と議会の一体化を感じた。</li> <li>喫緊の課題に対して行政と議会が共通認識を持ち、真剣に取組んでいるように感じた。</li> <li>牛乳生産本州一という地域特性を大いに活かし「牛乳で乾杯条例」を制定するなど地域ブランドを活かした取組みは参考となる。</li> <li>新幹線の止まるまちは、東京との距離感が豊田市と違うことを改めて感じた。</li> <li>駅周辺で区画整理事業などの大型事業が予定されており、今後の動向を注視したい。</li> <li>本市の魅力、住みやすさ等の情報をもっと市内外に発信すべきである。</li> <li>那須塩原市では、出生率を上げるために子どもを持つ家庭に対しての重点的に取組んでいるため、高齢者施策が重点取組みに入っていないが、高齢者からの意見をどのように受止めているのか疑問が残る。</li> </ul>

## 視察報告書【2】

委員会名	地方創生対策特別委員会	委員長	太田 博康
視察日時	平成27年11月18日（水）午前10時30分～午前12時00分		
視察先	栃木県那須町		
視察内容	道の駅【那須高原友愛の森】の管理運営について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「地方版総合戦略（人口減少対策、地域活性化など）」の参考とするため		
本市議会の現状と課題	当委員会は、まち・ひと・しごと創生基本方針2015への対応策として、地方版総合戦略の策定、観光や地域活性化の拠点となる「道の駅」の更なる充実、人口減少など地域課題への対応策等の推進を目指し調査・研究を行っている。		
○	○	○	○
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平山議長より歓迎の挨拶</li> <li>・ 平山議長、三上副議長を始め、産業建設観光常任委員等8名に視察対応をして頂いた。</li> <li>・ 説明者 観光商工課 大沼課長、木村 観光施設整備係長</li> <li>・ 友愛の森 昭和60年に中学校の跡地3haの利用として、那須町観光振興基本計画が策定され、町の文化とスポーツの拠点施設として位置付けられ昭和63年に開所。 平成9年4月に「那須高原友愛の森」おして道の駅に登録。 当初は、トイレの不備、駐車台数が少ないなど不評であった。 平成16年に那須高原地域再生計画を策定、平成17年より国の認定を受け国土交通省のまちづくり交付金の活用で総事業費約6億円を投入し、観光交流センター、アグリ情報館、公衆トイレ、駐車場等の整備を行った。 平成26年には、道の駅として更なる強化を図るため総合計画を策定し平成27年1月に重点「道の駅」に選定され、これを踏まえ現在再整備基本計画を策定中である。</li> </ul>		
○	○	○	○
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道の駅「那須高原友愛の森」は、那須町の観光の玄関口としての機能を果たしており、駐車場も広く使い易さに優れていると共に、観光客と住民が交流する体験教室等、地域活性化の拠点となる優れた企画が評価されている。</li> <li>・ 運営主体として行政やJAではない地元の団体、「那須未来株式会社」…第3セクター 「ふれあいの郷直売所」…生産者で構成される直売所組合 「那須の食レストラン」…なすとらん俱楽部運営組合 が運営しており評価できる。</li> <li>・ 運営において、女性スタッフの意見や感性を取り入れ売上げを伸ばしたり、産直では地元産の野菜を主に取扱い近隣ホテルや宿泊客が多くを購入したり、品薄になる時は近隣スーパー等が協力し商品を納品するなどの連携も上手く取れている。</li> <li>・ また、レストランでは地産地消メニューを地元の女性たちが考案</li> </ul>		

	<p>し、同様のメニューが町内の契約飲食店でも味わうことができ、こちらにおいても連携ができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の取組みにおいて、インバウンド観光に対応する観光地としての機能と情報発信の強化、魅力あふれる商品開発から入込み客数の増加を狙っている。</li> </ul>
本市議会に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな道の駅やこれまでの道の駅の環境整備についてもっと取組む必要があると考える。</li> <li>これまで以上に地産地消の商品について種類、量とも充実することが必要であり新鮮で安全安心な豊田市産の商品を観光客や道の駅の利用者に提供することが重要である。</li> <li>道の駅のレストランや産直販売所などの観光施設を合えてJA等のプロに任せ、工夫することにより地元の人たちに委託する方法もあるのではないかと考える。</li> <li>インバウンド観光（訪日外国人旅行者）の促進は、ラグビーワールドカップ2019などの国際的なイベントを控えている豊田市において、外国人向けのアプリ開発や観光案内など無料公衆無線LANのような情報環境整備などの機能強化を推進するべきと考える。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校の跡地であったことから、面積が3haありスポーツ施設もゆったりしている。</li> <li>整備費の5億円は安いと思われる。</li> <li>町全体の発展を目的として平成30年を目処に「那須高原友愛の森」再整備が進められている中で、昨年実施されたパブリックコメントには111件の意見が出され、意見として民業圧迫を危惧するものや温泉施設の整備などを望む声があったようであり、再整備により町内外からの新たな集客の実現により、地元事業者の新たな事業機会の創出につながることを期待する。</li> <li>「那須」というネームバリューの強み</li> <li>広域な本市としては、南北バイパス付近を利用した新たな道の駅を設置すべきと考える。</li> <li>近隣には多くの民間観光施設があるため、営業収益だけを目標とせずに地域の観光情報の発信拠点として、また各地区から来るバスのターミナルとしての機能など、町の玄関口としての役割が大きい。</li> <li>施設のゆったりとした空間スペースが、訪れた観光客に安らぎを与えるような場所であった。</li> </ul>

### 視察報告書【3】

委員会名	地方創生対策特別委員会	委員長	太田 博康
視察日時	平成27年11月19日(木)午前10時00分~午前11時00分		
視察先	内閣府		
視察内容	地方版総合戦略について		
選定理由	当委員会の調査研究事項である「地方版総合戦略(人口減少対策、地域活性化など)」の参考とするため		
本市議会の現状と課題	当委員会は、まち・ひと・しごと創生基本方針2015への対応策として、地方版総合戦略の策定、観光や地域活性化の拠点となる「道の駅」の更なる充実、人口減少など地域課題への対応策等の推進を目指し調査・研究を行っている。		
○ 視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 挨拶 内閣府地方創生推進室 諸戸 次長</li> <li>・ 説明者 内閣府地方創生推進室 森 参事官</li> <li>・ 地方創生に向けた取組 将来人口動向等(2040年に全都道府県で人口減少) 「長期ビジョン」と「総合戦略」 まち・ひと・しごと創生基本方針2015</li> <li>・ 地方人口ビジョンと地方版総合戦略 地方人口ぎじょん(地方により減少段階は大きく異なる) 大都市は第1段階、地方都市は第2段階、過疎地域は第3段階</li> </ul>		
○ 評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 内閣府地方創生推進室からのレクチャーは短時間ではあったが、地方版総合戦略の概要、地方地自体の制定状況、国の支援内容についての説明を受け、本市の地域特性に応じた総合戦略の制定が求められていることを改めて確認した。</li> <li>・ 国からの補助金や支援などに関して、まだ不透明なことが多い。</li> </ul>		
○ 本市議会に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国が地方に対して行っている情報支援、人的支援をもっと活用すべきである。</li> <li>・ 本市の地域特性を踏まえた計画的かつ戦略的な取組が必要であり、「やれることをやっていく」から「やるべきことをやっていく」という視点に立つことが求められている。</li> <li>・ 若者の移住、定住化のために必要な情報発信や豊田市に愛着を持って結婚し子どもを生み育てることのできる環境整備が必要。</li> </ul>		
○ その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国が総人口の1億人の維持を目標とするなら地方に対して出生率1.8を求めるべきであり、それに必要な対策はまず国が取組むなどもっと国が大鉈を振る必要がある。</li> <li>・ 豊田市には今ある資源をもっと有効に活用することで、国が求める地方創生に対応することができると考える。</li> </ul>		